

2017年2月21日

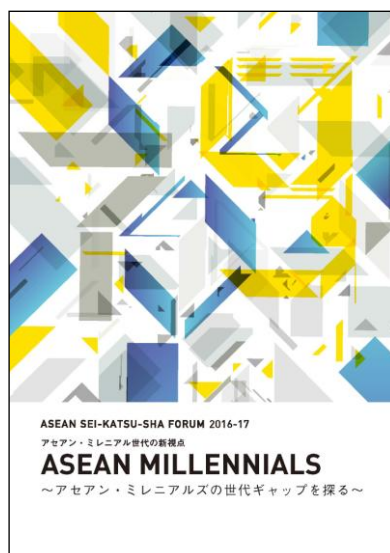
**博報堂生活総研アセアン、バンコクにて「アセアン生活者フォーラム 2017」を実施
—『ASEAN MILLENNIALS』～アセアン・ミレニアルズの世代間ギャップを探る～を発表—
アセアン7カ国 80・90年代生まれの若者世代 1,800人比較調査**

博報堂が2014年3月にタイに開設した、博報堂生活総合研究所アセアン(以下、博報堂生活総研アセアン)は2017年2月21日バンコクにて、3回目となるアセアンの生活者に関する最新の研究成果を発表いたしました。今回は、『ASEAN MILLENNIALS』～アセアン・ミレニアルズの世代間ギャップを探る～と題し、ミレニアル世代間の生活意識や労働意識、デジタル行動などの違いを紹介いたしました。

アセアン各国の企業・タイ企業・日本企業のマーケティング担当や経営層、タイのマスコミ各社などを中心に300名を超える方々にお集まりいただき、成功裏に終了いたしましたので、お知らせいたします。

ミレニアル世代と呼ばれる、1980～90年代生まれの人たちが世界的にマーケティング業界の注目を集めています。新しい価値観や卓越したデジタル対応力など、それまでの世代との違いが大きく、これまでのマーケティングが通用しにくい世代といわれています。とりわけ若者世代人口が多いアセアンでは、ミレニアル世代が存在感を示しています。一方で、近年の社会情勢や経済状況の変化が大きく、この幅広い世代をひとくりに定義するのは難しいため、1980/90年代生まれに分けて調査を行いました。その世代の生活実態を調査・分析したところ、生き方・働き方からデジタルライフ、そして買い物行動などに世代間ギャップが存在することが明らかになりました。

発表の詳細は、博報堂生活総研アセアンのウェブサイト(<http://www.hillasean.com/>)をご覧ください。



今後も博報堂生活総研アセアンは生活者研究を継続し、独自の視点でアセアンの生活者を見つめ、新しい角度からの洞察を提言していきます。

【調査概要】

◆世代間ギャップに関する調査

調査手法: WEB 調査

調査対象者: 一般生活者 男女 1970、80、90 年代生まれ

調査エリア: シンガポール、クアラルンプール(マレーシア)、バンコク(タイ)、ジャカルタ(インドネシア)、ホーチミンシティ(ベトナム)、マニラ(フィリピン)

サンプル数: 総計 1,800 名 (6 都市×300 名)

割付: 各国の人口構成に準じる

調査実施: 株式会社 東京サーベイ・リサーチ

調査日時: 2016 年 9 月

【博報堂生活総研アセアン】 概要

2014 年、博報堂生活総研アセアンはアセアンにおける生活者を研究する博報堂グループのシンクタンクとして設立されました。日本で 1981 年に生活総合研究所を設立して以来、30 年以上蓄積してきた生活者研究のノウハウを生かし、アセアンにおける企業のマーケティング活動をサポートしていくと共に、これからのアセアンでの新しい暮らしの在り方を洞察・提言していきます。

■正式名称: 博報堂生活総合研究所アセアン

■英文名称: Hakuodo Institute of Life and Living ASEAN

■所長: 帆刈吾郎

■所在地: タイ・バンコク市

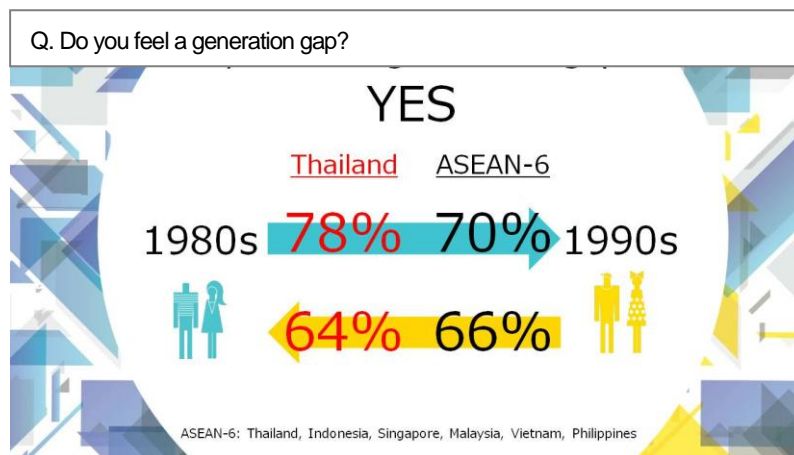
■研究・活動内容:

- ・アセアン生活者の生活定点調査「アセアン生活定点」(隔年に一度)
- ・アセアン各国視点での調査・分析
- ・アセアン各国でのフォーラム開催

<参考資料>

アセアン・ミレニアルズの世代間ギャップ意識

アセアン各国の 80 年代生まれ、90 年代生まれに「世代間ギャップを感じますか？」との設問に、ASEAN-6(タイ、インドネシア、シンガポール、マレーシア、ベトナム、フィリピン)の 80 年代生まれから 90 年代生まれに対してギャップがあると答えた ASEAN-6 平均は 70%、タイは 78%でした。一方 90 年代生まれから 80 年代生まれに対しては、ASEAN-6 平均が 66%、タイでは 64%でした。80 年代生まれから 90 年代生まれに対して世代間ギャップがあると答えた人の割合がタイで高いのは、下にあるように Facebook やスマートフォンの影響の大きさがタイでは80年代生まれと90年代生まれでギャップが大きいことが理由の一つとして推測されます。



アセアン・ミレニアルズが影響を受けてきた歴史的出来事は異なる

「あなたの人生にインパクトを与えた歴史的出来事は？」という設問には、80 年代生まれが 10 代の頃に起こった 1998 年のアジア通貨危機をあげる一方、90 年代生まれは、Facebook／スマートフォンの登場の方がインパクトが強いようです。

アジア通貨危機のインパクトは、経済的に打撃が大きかったインドネシアやタイの数値が 80・90 年代ともに大きく、親が失業したり、出稼ぎに出たり、引っ越しがあったりと人生そのものへの影響があったようです。

Facebook／スマートフォンの登場の影響は、ベトナムやタイにおいては世代間ギャップが大きく、ある程度年齢を重ねてからスマホを手にした 80 年代生まれよりも、若いうちにスマホを介して Facebook などコミュニティが一気に広がった 90 年代生まれにより強いインパクトがあったようです。

